

# 特集にあたって

高久 嶺之介

本誌に収録している高久、井ヶ田、籠谷、長、奥田、井ヶ田・山岡、庄司の七本の論稿は、現在研究活動を続けている人文科学研究第一五期の研究会「地域社会の変容と地域開発の史的研究―近畿地方を対象に―」研究会（第四研究会、二〇〇四―二〇〇六年度、代表者高久嶺之介）の成果である。この研究会は、第一四期の二〇〇一年から二〇〇三年までの研究会「地域社会変容の史的研究―近畿地方を中心に―」（第七研究会）というテーマの研究会（代表者高久嶺之介）を引き継いでいるから、この成果は第一四期と第一五期の成果といってもよい。

この研究会の目的は次のところにある。すなわち、近畿地方の地域社会の変容の要因を史的にさぐるという方向性をもとに、各参加者が課題を設定し、近畿地域（その中心の対象地域は京都市域）がどのように変容しているかを、近世・近代・現代を通じて明らかにする、とい

うことである。そして、地域社会変容の様々な要因の内、地域の内部からおきてくる地域開発（地域振興）の動きも重視してとりあげていく、ということも目的のひとつとしている。

この結果、本誌の特集号では、多様な地域の多様な問題が披瀝されることになった。なお、今回は七つの論稿がそろったことになったが、締切の関係で次回掲載のものもある。今回のものにひきつづき次回の本誌（特集号の形式はとらない）もご味読いただきたい。